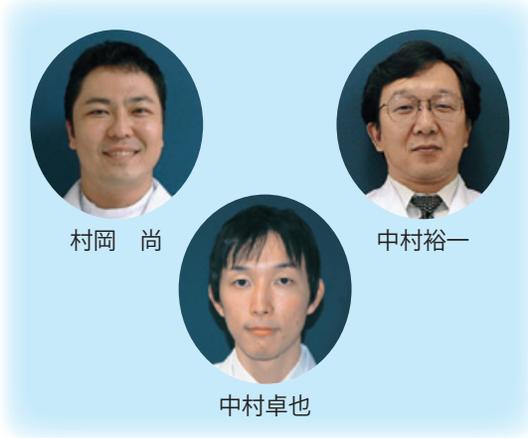


診療最前線

脳神経外科

脳神経外科は、地域における基幹病院として、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷を中心にすべての脳神経疾患において専門的治療を実施し、さらに予防活動を積極的に進めています。2名の脳神経外科専門医（頭痛専門医1名、脳卒中専門医1名）を中心に、頭痛外来、物忘れ外来も併設し、急性期医療から、手術、リハビリテーションまで、高齢化社会にも対応した全人的医療を24時間365日行っています。



対象疾患

〈脳卒中〉

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳血管障害（脳・頸動脈狭窄、未破裂脳動脈瘤、脳動静脈奇形など）

〈脳腫瘍〉

良性腫瘍（髄膜腫、下垂体腺腫、聴神経腫瘍など）、悪性腫瘍（神経膠腫、悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍など）

〈頭部外傷〉

急性硬膜下・外血腫、慢性硬膜下血腫、頭蓋骨折、脳挫傷

〈認知症〉

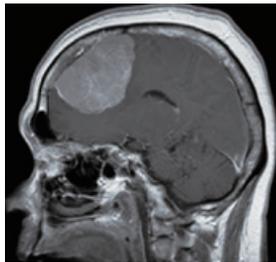
血管性認知症、アルツハイマー

〈頭痛〉

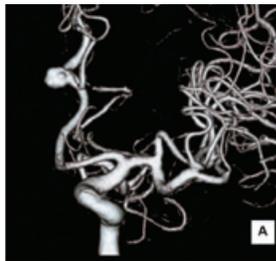
片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛

〈その他〉

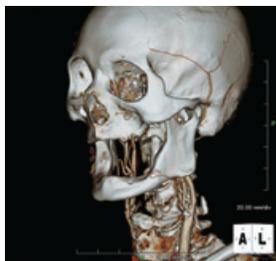
顔面けいれん、顔面神経麻痺、



脳腫瘍



脳動脈瘤



頸動脈の血管

治療の特色

三叉神経痛、パーキンソン病、髄膜炎、脳炎
脳血管障害と脳腫瘍が中心ですが、そのみでなく、生活習慣病である高血圧、高脂血症、糖尿病も含め、その人全体として治療し、急性期から脳神経疾患後遺症に対する慢性的な症状に対してサポートする体制で、漢方治療の併用も行っています。

得意分野

脳神経外科の名のとおり、外科的治療を最も得意としています。手術については、脳動脈瘤頸部クリッピング術は症例数において全国ランキング入りしており、頸動脈狭窄に対する内頸動脈内膜剥離術は長野県内でも有数で、全国でもトップクラス

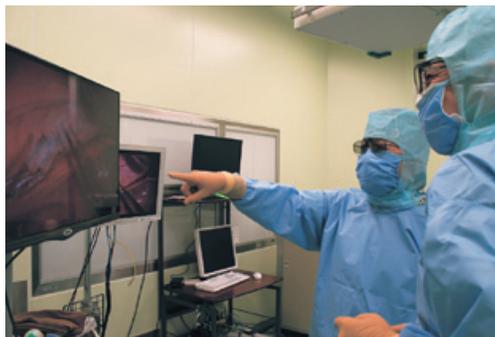
の成績をおさめています。

手術支援装置も充実しており、長野県で初となる高性能の最新式顕微鏡が2台整備され、2名の脳神経外科専門医が並行して手術できる体制を組んでいます。2台とも、手術中にリアルタイムで脳血管内の血流を見ることが可能なICG観察装置システムと脳腫瘍摘出術に用いる蛍光認識システムがあらかじめ組み込まれています。1台の最新式顕微鏡（平成25年9月導入）は、術者以外のスタッフが顕微鏡を覗かなくても立体的に見えるように3Dモニターが付属しているなど、全国的にも最上位の機種となっています。また、術中神経ナビゲーションシステム、術中筋電図・誘発電位検査装置などの最先端手術支援装置が常設しており、患者さんが安全に安心して手術を受けられるような体制をとっています。

脳血管障害のうち、くも膜下出血（破裂脳動脈瘤）の社会復帰率は良好で、さらに未破裂脳動脈瘤手術でも前記の装置により、良好な結果を得ています。当院には血管内治療専門医はおりませんが、血管内手術が必要



最新の顕微鏡を使用した頸動脈内膜剥離術



3Dモニター

な場合は県内の専門医と連絡をとり、治療方針が選択できるようにも対応しています。
脳梗塞においてはt-PA血栓溶解療法を中心とする超急性期治療に始まり、高気圧酸素療

法や観血的血栓除去術のほか、慢性期には血行再建術も行っています。脳出血においては開頭血腫除去術、CT誘導下穿頭血腫除去術を主として行っています。さらに、超急性期からリハビリテーションを行い、早期回復をめざした診療体制を組んでいます。
最近、治療で治る認知症として特発性正常圧水頭症が注目されており、診療ガイドラインに準じて診断・治療を行っています。治療法としては脳にチューブを埋め込まない腰椎くも膜下腔—腹腔シャント（L-Pシャント）術を主体に行い、手術症例数は県内で最も多く、良好な成績をおさめています。

予防治療・診断

脳神経疾患においては早期発見、早期診断が重要となります。従来からも対応していましたが、脳神経外科常勤医が3名おり、外来診療だけでなく救急外来も含め、24時間体制で対応しています。CT、脳血管撮影のほか、MRIは東北信地方初となる1.53.0テスラ（高分解能）が1台、

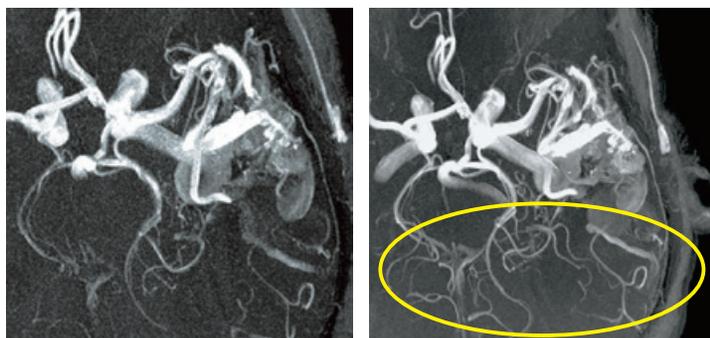
テスラが2台あり、緊急時にも随時撮影ができ、3.0テスラMRIでは今まで描出不能であった微小血管の穿通枝動脈や微小病変の検出が可能となりました。



東北信地方初
第2世代3.0テスラMRI装置

脳血流SPECTも整備され、脳血管障害の評価だけでなく、認知症の診断でより重要な検査となり、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、正常圧水頭症など効率的に鑑別ができます。

その他、脳ドックにおいては無症候性脳梗塞、未破裂脳動脈瘤や脳・頸動脈血管狭窄、脳腫瘍などの早期発見を目指し、早期治療につながるように2名の日本脳ドック学会会員の診察・診断のもとで対応しています。



1.5テスラ
3.0テスラ（描出向上）
1.5テスラMRIと3.0テスラMRIの比較画像

漢方治療

脳神経障害において、通常の治療の補助治療として漢方製剤を併用しています。脳腫瘍や頭部外傷、脳血管障害後遺症、頭痛や認知症などにおいては漢方治療の併用で良好な成果が得られ、難治性の症状・慢性期の症状に対しても有効な治療を提供できるよう取り組んでいます。
(脳神経外科部長 村岡 尚)